



# 学校だより

～ ひびきあう心 かがやく笑顔 ふれあいの丘 斎藤分 ～

令和4年 1月31日 2月号

横浜市立斎藤分小学校 校長 黒木 健

## 正門での登校指導で大切にしてきたこと

校長 黒木 健

厳しい寒さが続いておりますが、本校保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。さて、今月の学校だよりは、「正門での登校指導で大切にしてきたこと」と題して、話をさせていただきます。毎朝、特別なことがない限り、丸山教諭（児童支援専任）と共に正門で児童の登校を見守っています。前任校でも5年間同じことを続けてきました。

ところで学校社会の中で、この「登校指導」と言われる正門での朝の見守り活動には、一体どのような教育的意義があるのかというのが、今月の学校だよりでお伝えしたい内容です。私がこの仕事に就いてから強く意識していることの一つに、「小学校の朝は、一人ひとりの児童の表情を見るところから始まる。」という心得があります。一日の学校生活の中だけでも、児童は様々な表情を見せますが、中でも朝登校してくる時の表情は、とりわけ重要です。例えば、下を向きながらいつもとは異なる表情を浮かべて登校して来る児童、いつもの登校時刻よりもかなり遅れて登校して来る児童、時には涙ぐみながら登校して来る児童などもおり、そのような場合には必ず声をかけ話を聞いた上で、児童支援専任などが学級担任や養護教諭にその情報を伝えると共に、内容によってはご家庭への連絡も行います。また表情だけではなく、いつも一緒に登校して来る児童と今日に限っては一緒に登校していない、いつも兄弟姉妹で登校して来るのに、今日はそのどちらか一人がまだ登校していないなど、その児童の登校パターンが通常のものとは異なる場合には、「今日はどうしたのかな。」と心の中で呟きながら、時には児童本人に尋ねたり、また職員室に連絡が入っていないか確認をしたりしながら、一人ひとりの児童を迎え入れるよう心がけています。

また、以前にこのようなこともありました。登校してくる児童から、「先生、〇〇さんが通学路で泣いています。」「先生、〇〇さんが〇〇の辺りで転んで怪我をしています。」といった児童の安全に関わる重要な情報が、登校して来る他児童からもたらされることもあります。そのような場合には、児童支援専任などが、その情報をもとに即座に現場に駆け付けることとなります。こうした対応のことを私は、「駆け付け支援」と呼んでいます。毎朝こうしたことを繰り返すことによって、私自身も徐々に児童の顔と名前を一致させていくことができますし、また、いつもとは異なる児童の「異変」にも気付ける可能性も高まってくるのではないかと考えています。

小学校に限らず公立学校には、市町村の教育委員会事務局が作成した規定やマニュアル的な資料が多数存在しますが、この「登校指導」のような一見守り活動については、私が承知している限り、そうした体系的なマニュアルは見当たりません。日々の業務の中で数多くの事例に触れ、自分自身の感覚を磨いていくことでしか、強化していくことのできない分野であると捉えています。一方で、体系的なマニュアルにしにくい内容でもあることから、これが正解、これは不正解と区別できるものでもなく、各学校や児童の状況、保護者の願い、また地域の見守り活動の状況などと合わせ、その実情に合致した支援の在り方を模索していくという方が、理にかなっているのではないかと感じています。日々、児童の心の中には様々な思いや願いが交錯しています。その全てをタイムリーに完全解決に導くことまでは難しくとも、一人ひとりの児童が一日を気持ちよく始めることができるよう、全教職員で、様々な角度から支援を続けていくことができればと思っています。